

アルコール健康障害に関する看護師国家試験出題基準および出題実績

田辺有理子, 松下年子 (横浜市立大学医学部看護学科)

【目的】

本研究では、第1期アルコール健康障害対策推進基本計画の見直しに向けた専門職育成の情報の一部として、看護基礎教育におけるアルコール教育の内容を検討するために、看護師国家試験の出題基準および出題実績からアルコール健康障害および依存症看護に関する内容を明らかにした。

【方法】

1. 現行の看護師国家試験出題基準である保健師助産師看護師国家試験出題基準平成30年版から、アルコール健康障害に関わる記載のある項目を抜粋した。
2. 厚生労働省ホームページに公開されている第101回(2012年)から第109回(2020年)までの看護師国家試験問題において、「アルコール」「依存」「飲酒」「禁酒」に関わる記載のある項目を抽出した。なお、「アルコール綿」など本調査に関係しない設問は省いた。

【結果】

1. 看護師国家試験出題基準 (表1)

看護師国家試験出題基準において、「アルコール」「依存」「飲酒」のキーワードでは、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「健康支援と社会保障制度」、「小児看護学」、「母性看護学」の4科目に該当があった。また、キーワードとしては記載されていないがアルコール健康障害に関連する内容として、「必修問題」では、2.健康に影響する要因、A.生活行動・習慣、f.喫煙、嗜好品、「成人看護学」では、生活習慣に関連する健康課題、「精神看護学」では、2.主な精神疾患・障害の特徴と看護、B.精神作用物質使用による精神・行動の障害、a.症状と看護・b.臨床検査および心理検査と看護・4.精神疾患・障害がある者への看護があり、ICD-10(国際疾病分類)のF10アルコール使用(飲酒)による精神及び行動の障害が含まれていたほか、G.社会資源の活用とケアマネジメント、c.セルフヘルプグループの記載が確認された。

2. 看護師国家試験出題実績 (表2)

看護師国家試験の出題実績では、「成人看護学」の疾患と飲酒の関係に関する問題、「母性看護学」の妊娠中の飲酒に関する問題が出題されたほか、「精神看護学」でアルコール依存症に関する状況設定問題が出題され、病態、対応、家族看護、リハビリテーションなどが問われている。状況設定問題は1事例を3問で構成されており、アルコール依存症の事例に関する状況設定問題は、2012年、2016年、2020年に4年ごとに1問出題され、系統的に知識を確認できる内容であった。2012年の状況設定問題は、アルコール性肝硬変と診断されたが断酒できずに専門医療機関を受診してアルコール依存症と診断された事例を通して、否認への対応、家族(妻)への助言、再飲酒時の対応が問われた。2016年は、アルコール依存症の治療からリハビリテーションの導入について、アルコール依存症の症状、入院後2日目の離脱症状、退院指導の内容が問われた。2020年は、居酒屋で大量飲酒後に意識を消失して救急救命センターへ搬送された事例で、入院初期の離脱症状、家族への対応、セルフヘルプグループについて問われた。

【考察】

看護基礎教育の教育内容は、看護師国家試験を見据えて構成されている。看護師国家試験出題基準においてアルコール健康障害に関する内容は、「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」「小児看護学」「母性看護学」の科目に記載されている。過去の国家試験出題実績をみると、「成人看護学」の疾患と飲酒の関係に関する問題、「母性看護学」の妊娠中の飲酒に関する問題が出題されたほか、「精神看護学」で4年ごとにアルコール依存症に関する状況設定問題が出題されている。

アルコールによる様々な健康障害や社会的な課題を踏まえて、2013年にアルコール健康障害対策基本法が成立し、アルコール健康障害に関する看護のニーズも高まった。現行の看護基礎教育においてアルコール健康障害・アルコール依存症は、生活習慣としての飲酒や飲酒が健康に及ぼす影響、治療やリハビリテーション、アルコール健康障害対策本法について、看護の専門領域を横断して扱われている。「成人看護学」では肝疾患その他の健康障害が、「母性看護学」では妊娠中の飲酒習慣が、「小児看護学」では思春期の飲酒が教授されている。「精神看護学」では、依存症の病態や治療への導入、回復支援(アウトリーチ、ARP、SBIRTS、チーム連携、地域連携など)、家族支援、回復資源(拠点医療機関、民間社会復帰団体、自助グループ)などが教授されている。看護学教育のカリキュラムは、発達段階別あるいは疾患別の科目構成であるゆえ、科目間で補完しながら包括的なアルコール健康障害とその看護を教授することが今後の課題と考える。

表1. 看護師国家試験出題基準平成30年版におけるアルコール健康障害に関する記載項目

科目	大項目	中項目	小項目
必修問題	2.健康に影響する要因	A.生活行動・習慣	f.喫煙、嗜好品
人体の構造と機能	なし		
疾病の成り立ちと回復の促進	7.栄養の摂取・消化・吸収・代謝機能	D.肝臓・胆嚢・膵臓の疾患と病態の診断・治療	d.脂肪肝、アルコール性肝炎
	15.精神機能	A.精神・心身の疾患の病態と診断・治療	b.精神作用物質使用による精神・行動の異常(アルコール依存症、覚醒剤・大麻精神病)
健康支援と社会保障制度	6.社会福祉に関する法や施策	H. D~G以外の法や施策	c.依存症対策(アルコール依存、薬物依存、病的賭博)
	11.生活者の健康増進	A.生活習慣病の予防	c.喫煙・飲酒対策
基礎看護学	1.看護の基本となる概念	C.健康と生活	c.健康への影響要因 d.生活習慣とセルフケア
成人看護学	2.成人期における健康の保持・増進や疾病の予防	A.生活習慣に関連する健康課題	a.生活習慣病の要因 b.健康問題の現状と推移 c.生活習慣の是正
老年看護学	なし		
小児看護学	3.小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護	E.思春期の成長・発達の応じた生活への支援	i.喫煙・飲酒の防止
母性看護学	4.妊娠期の看護	B.妊婦・胎児の健康と生活のアセスメント	h.嗜好品(喫煙、アルコール、カフェイン)
精神看護学	2.主な精神疾患・障害の特徴と看護	B.精神作用物質使用による精神・行動の障害	a.症状と看護 b.臨床検査および心理検査と看護 c.薬物療法と看護
	4.精神疾患・障害がある者への看護	G.社会資源の活用とケアマネジメント	c.セルフヘルプグループ
在宅看護論	なし		
看護の統合と実践	なし		

表2. 看護師国家試験におけるアルコール健康障害に関する出題数とその内容

実施年・回	出題数	内容「キーワード」
第109回・2020(令和元)年	4	食道癌の危険因子「飲酒」アルコール依存症の一次予防 アルコール依存症の状況設定問題(3問)
第108回・2019(平成31)年	3	尿管結石の再発予防「飲酒」 状況設定問題肝硬変(2問)「急性アルコール中毒」食事指導「禁酒」
第107回・2018(平成30)年	0	(薬物依存に関する状況設定問題あり)
第106回・2017(平成29)年	1	疾患と生活習慣の組み合わせ
第105回・2016(平成28)年	3	アルコール依存症の状況設定問題(3問)
第104回・2015(平成27)年	1	妊娠中の飲酒習慣の影響「飲酒」
第103回・2014(平成26)年	1	アルコール依存症の断酒目的入院の看護 1問
第103回追加試験・ 2014(平成26)年	2	断酒会の目的 発達段階と心の健康問題の組み合わせ「アルコール依存症」
第102回・2013(平成25)年	1	飲酒に起因する健康障害
第101回・2012(平成24)年	3	アルコール依存症の状況設定問題(3問)
第100回・2011(平成23)年	1	アルコール離脱症状

本報告は、厚生労働省令和元年度障害者総合福祉推進事業 第1期アルコール健康障害対策推進基本計画における対策の取組状況および効果検証に関する研究(代表者吉本尚)の一部であるアルコール関連問題およびアルコール依存症等に関する「専門職教育」の実情調査(文献研究)看護師(看護基礎教育)に提出した調査結果の一部である。